

# 第1回 周南市スマートシティ推進協議会

協議資料

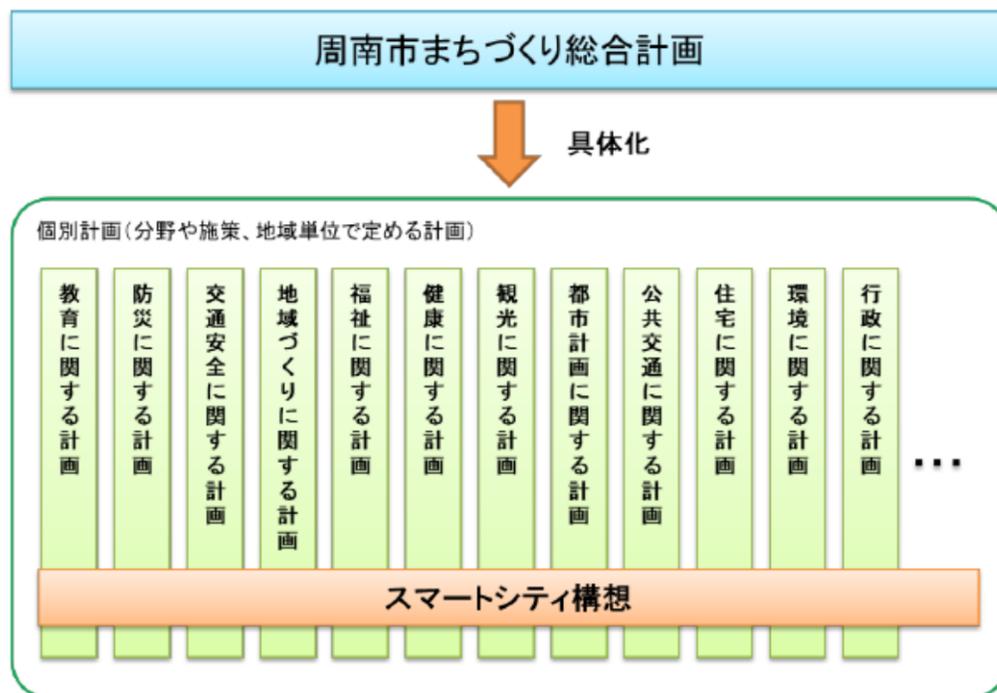
令和3年11月17日  
周南市企画部情報企画課

# § 1. 周南市スマートシティ構想（令和3年3月策定）

## 1 構想の目的と位置づけ

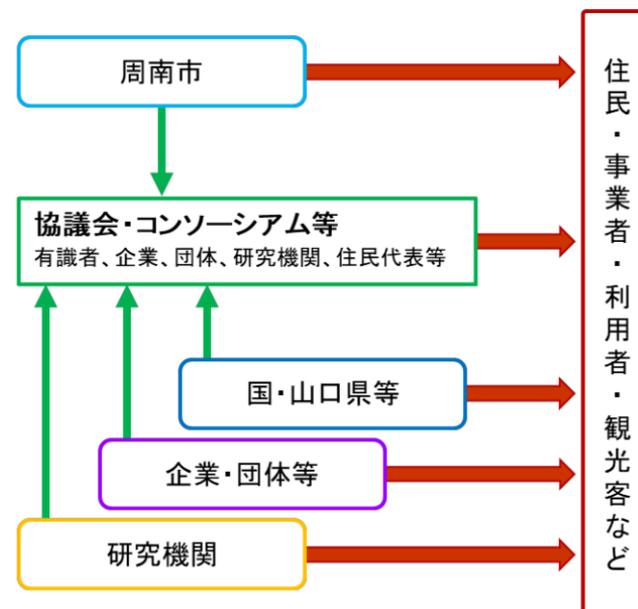
急速に発達しているAIやIoT、ロボット等の先端技術、ビッグデータ等を積極的に活用することが、社会的課題の解決や次世代社会に必要な新たな価値の創造につながることから、周南市スマートシティ構想を策定し、最重点施策としてスマートシティを推進する。

本構想は、市の最上位計画である総合計画に即して分野や基本施策、地域ごとに策定した個別計画を推進する手法の一つであるスマートシティ推進施策について、その体系と方向性を示す分野横断的な構想として位置付ける。

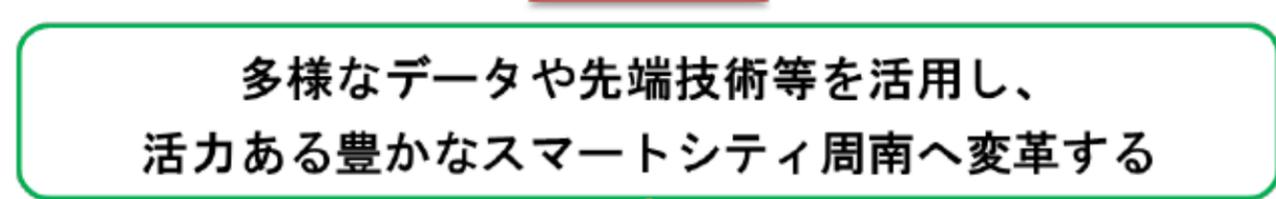


## 2 推進体制

スマートシティの実現に向けて、必要に応じて協議会、コンソーシアム等を結成するなど、公民連携のもと、それぞれの関係主体が持つ技術やノウハウ、専門人材を最大限に活用しながら、施策を実施する。



## 3 構想の全体概要

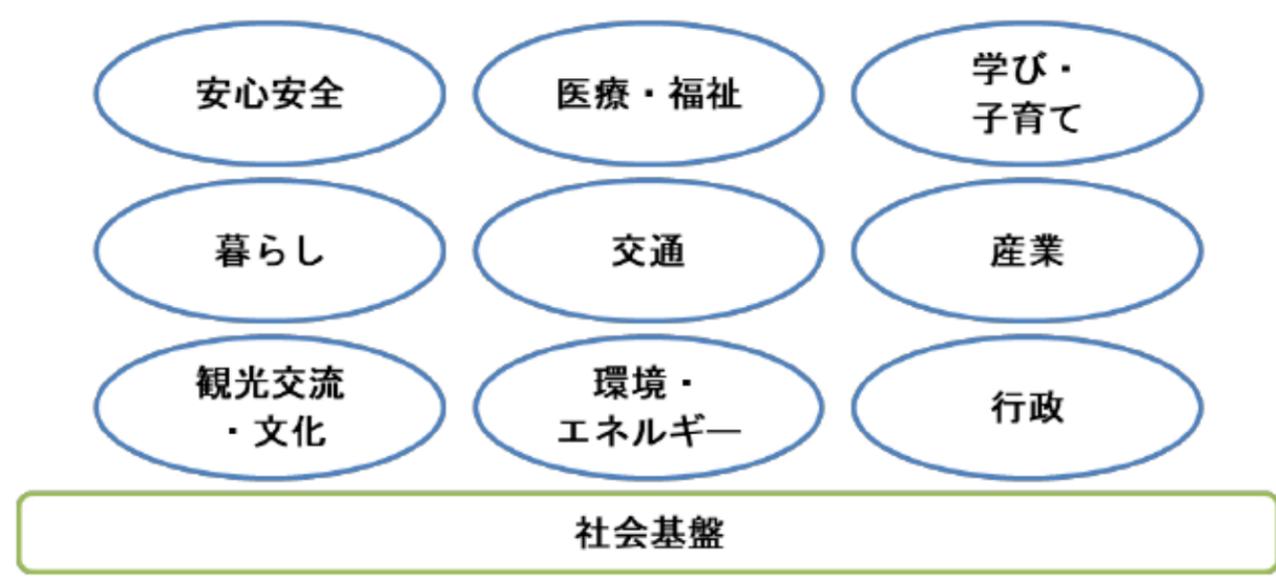


DX

- ①先端技術等の活用による課題解決・新たな価値創造
- ②データ駆動型・知識集約型都市の構築による最適化
- ③ICT人材の育成・活用等によるDXの加速
- ④情報格差の解消による誰もが快適な社会の実現
- ⑤スマート市役所の推進による市民サービス等の向上

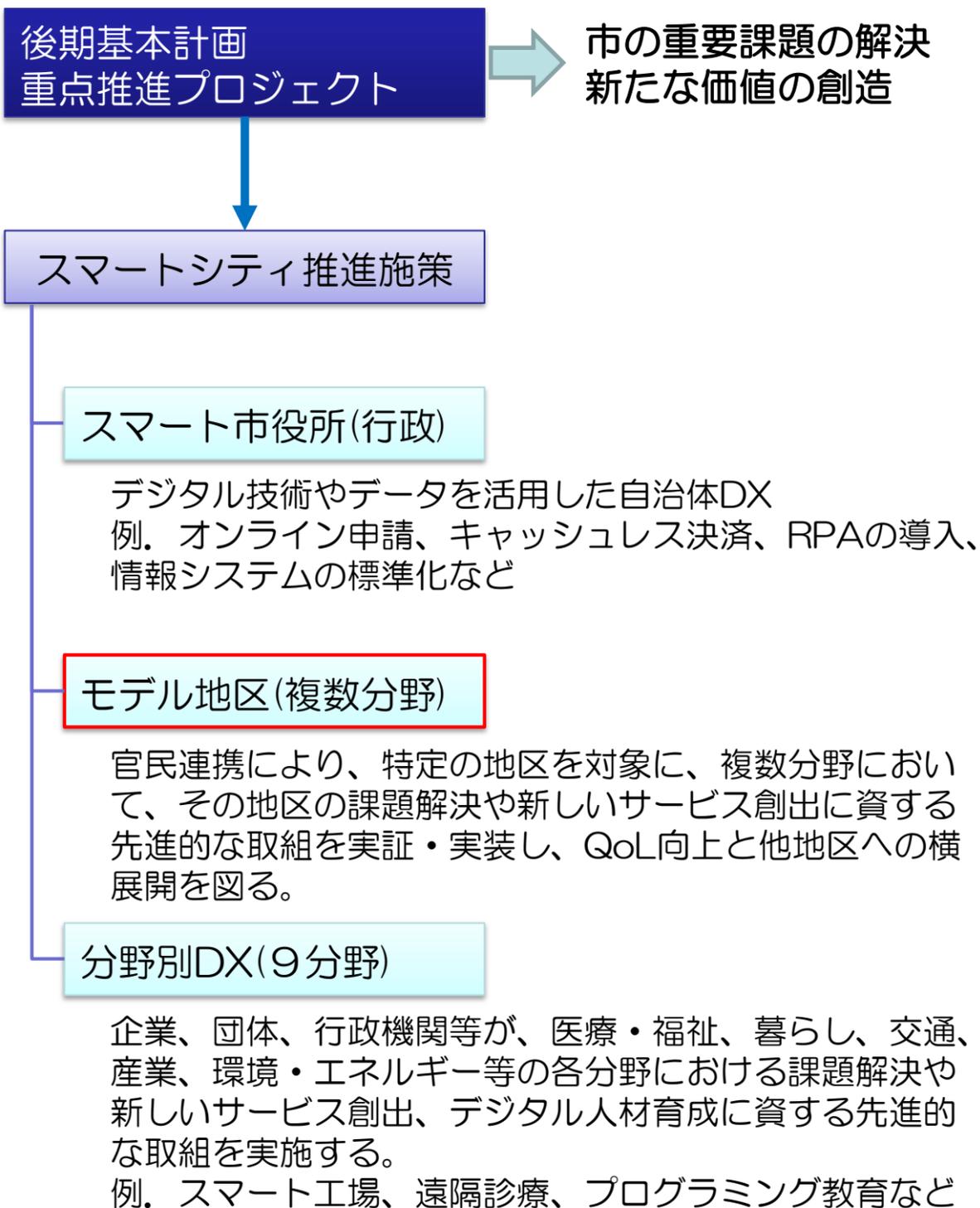
情報セキュリティの確保

分野間連携 公民連携



## § 2. スマートシティ推進の取組

### 1 スマートシティの実現に向けた施策体系

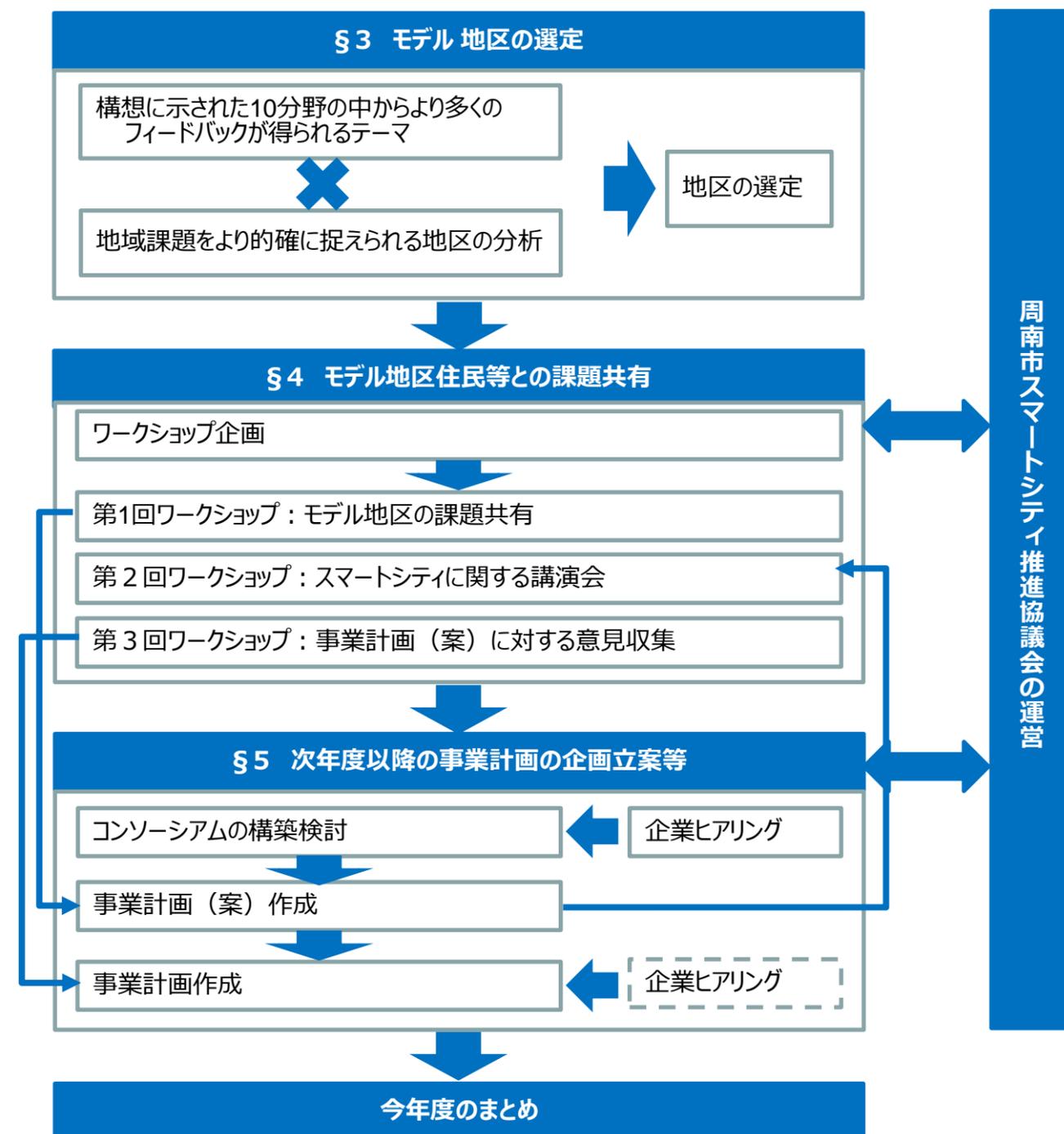


企業、団体、研究機関(大学、高専等)、国・山口県等との連携により、Society5.0を実現する

### 2 今年度の取組の流れ

スマート市役所や分野別DXの推進と併せて、モデル地区を選定し、地域社会の将来像の一例とその実現方策を示すとともに、そこから全市的なスマートシティへの展開を図る。

次年度以降の取組の事業計画を立案し、デジタル技術等の社会実装を目指す。事業計画の立案に際しては、その推進の担い手として、コンソーシアム等の体制とメンバー候補を検討し、中長期にわたる資金繰りを試算しながら、着実に自立・継続していける仕組みを検討する。



## § 3. モデル地区

### 1) モデル地区の位置付け

モデル地区では、周南市スマートシティ構想を基に、企業や研究機関、住民等と連携しながら、地区課題の解決や新たな価値の創造につながる先端技術、ビッグデータ等を活用した取組を先行実施する。

住民との意見交換を通じて、地区課題の解決に適した技術導入を検討し、必要な実証実験等を行いながら、将来的な社会実装、他地区への横展開につなげていく。

### 2) モデル地区選定のポイント

- モデル地区の基本条件として、地区課題分析に適していること、将来的に市内に波及させるための多面的な検証に適していることが重要となる。
- 上記を踏まえ、次の3つの視点から、モデル地区の選定を行う。

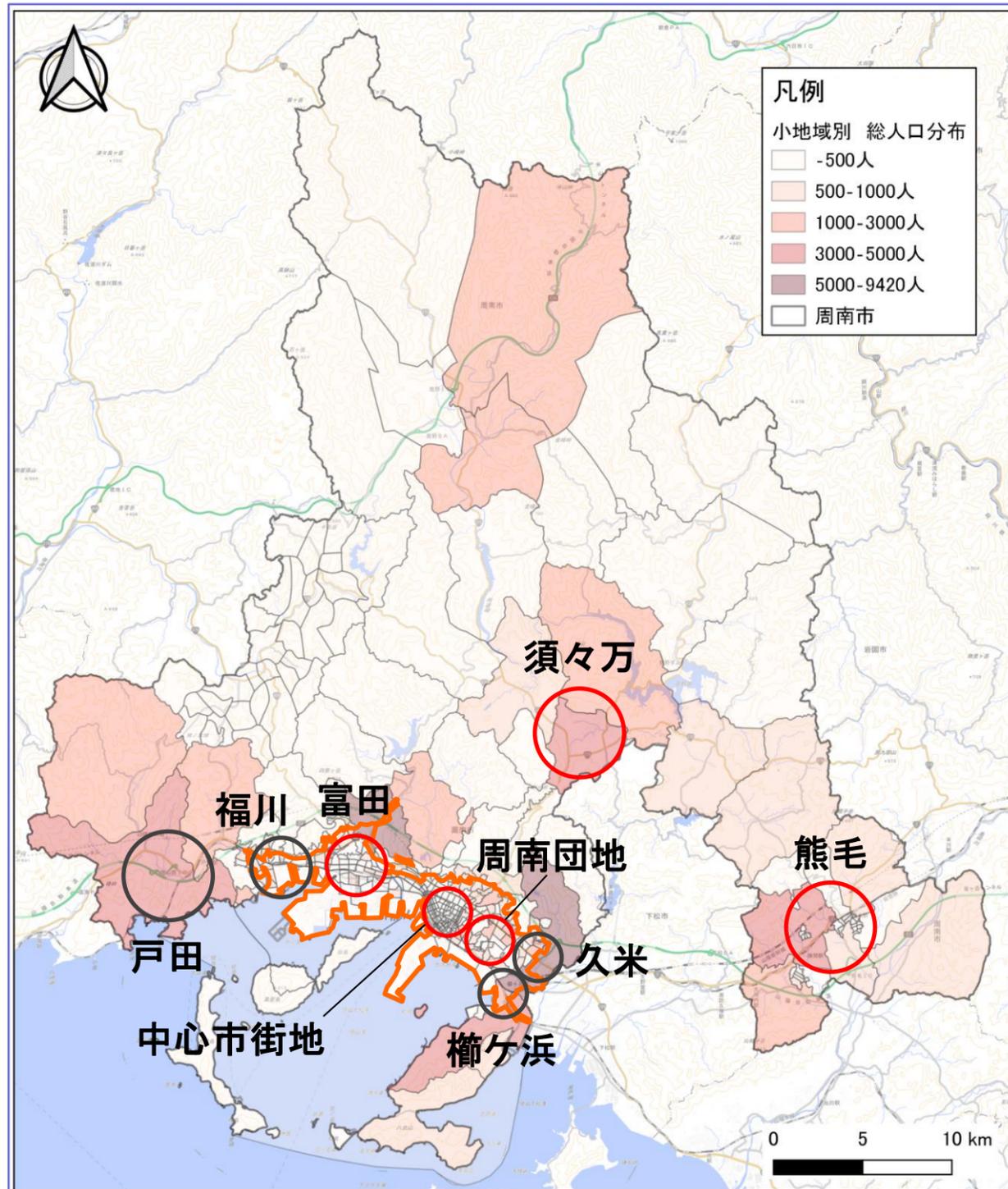
- 日常生活におけるスマート化の検証と効果的な事業周知が可能となる地区  
→年代構成に偏りがなく、人口密度が高い地区
- 多くの市民や来訪者が利用する施設と連携したスマート化の検証が可能となる地区  
→生活サービス施設等主要な施設が集中している地区
- 地区内外の市民の移動や地域間連携も含めたスマート化の検証が可能となる地区  
→鉄道または路線バスが利用しやすい地区

【年代構成・人口分布】、【主要施設分布】、【公共交通網】  
の3つの視点からモデル地区を選定

# § 3. モデル地区

## 3 モデル地区の検討

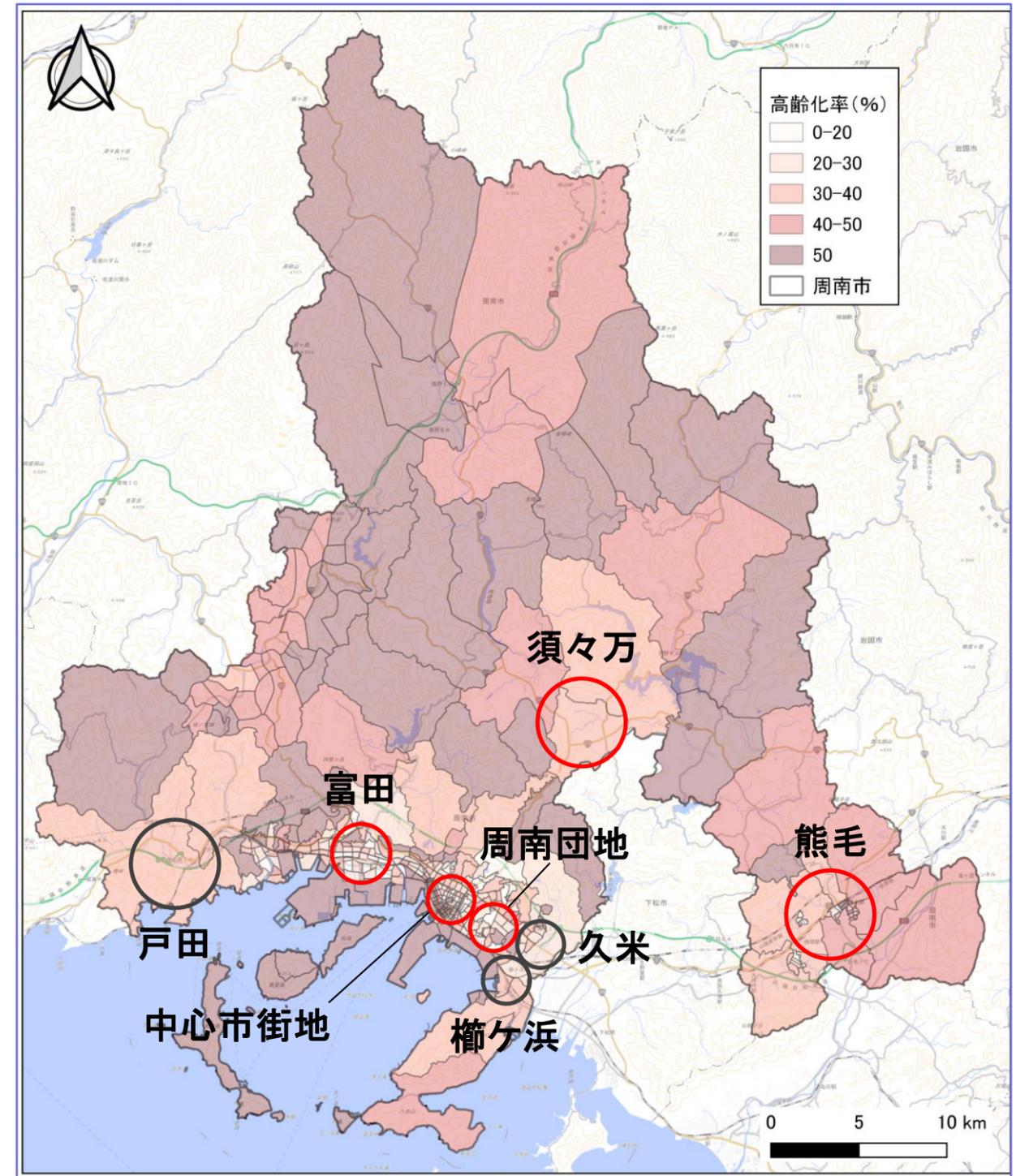
### 1-1.人口分布



出典:国勢調査 2015年

人口集中地区  
(平成27年 総務省統計局)

### 1-2.年代構成

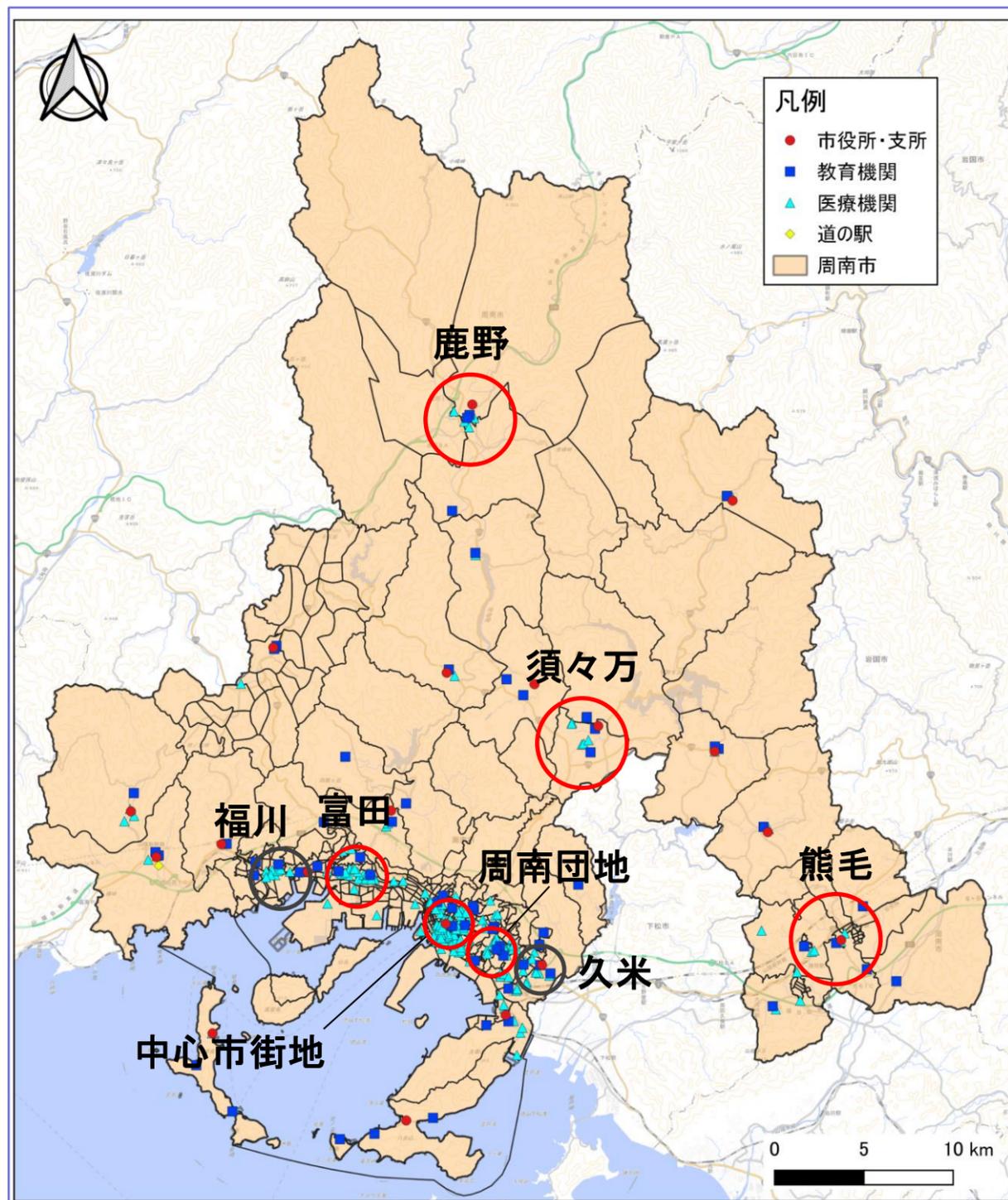


出典:国勢調査 2015年

※各図内の丸印は各視点から選定される地区を指し、赤丸は3つ全ての視点に合致する地区であることを意味する。

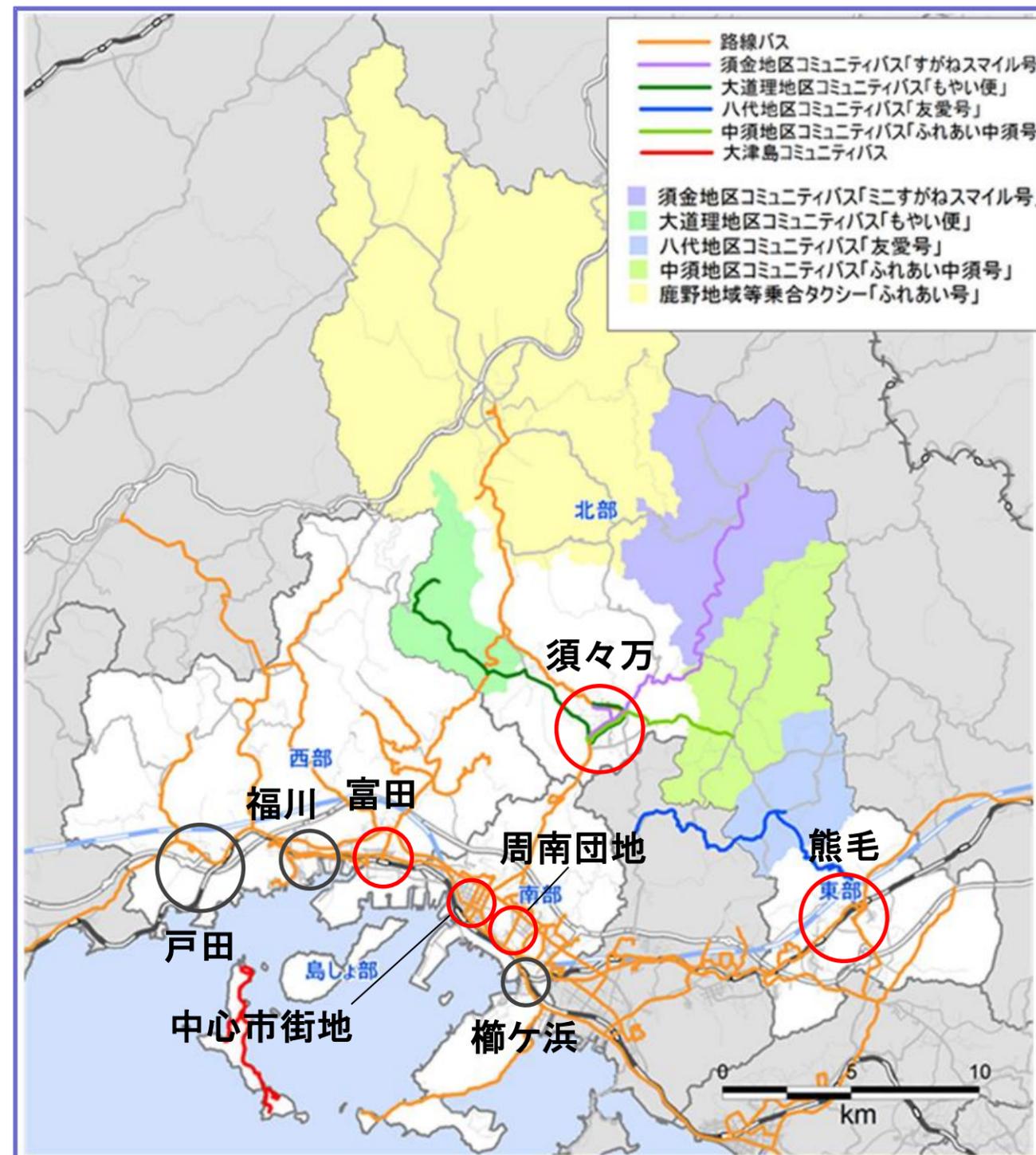
§ 3. モデル地区

2. 主要施設分布



出典:国土数値情報 公共施設データ H18、集客施設データ H26、道の駅データ H30

3. 交通が利用しやすいエリア



出典:「周南市地域公共交通計画」P18

以上3つの視点から、「中心市街地」、「周南団地」、「富田」、「熊毛」、「須々万」を候補として選定

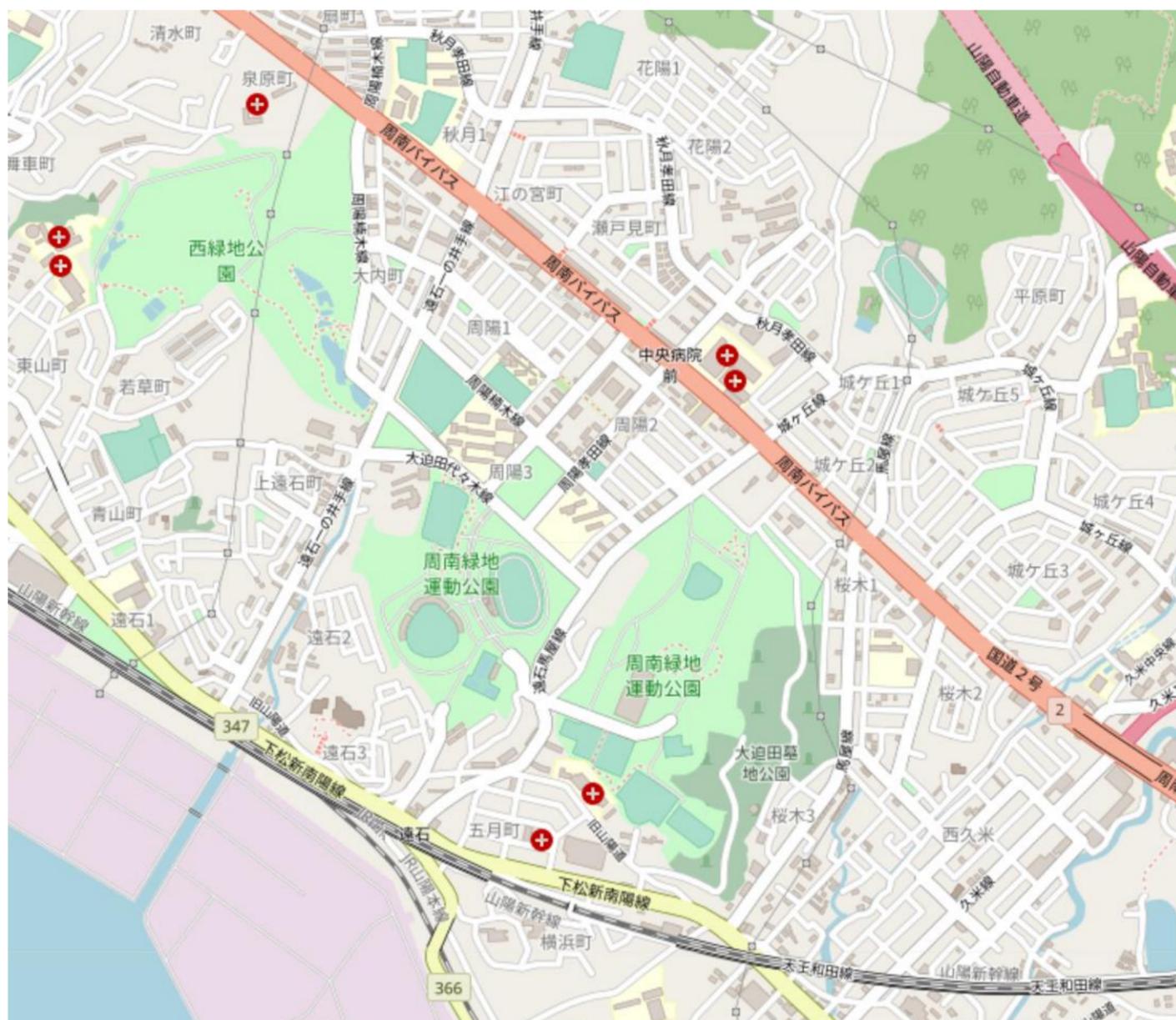
## § 3. モデル地区

### 4 モデル地区の選定

地区の特性を比較検討したうえで、実証実験、将来的な横展開、他の取組との連携等を総合的に勘案して、以下の理由により**周陽・遠石地区**をモデル地区に選定し、今後、**複数分野の取組を検討すること**とした。

なお、モデル地区については、厳密に範囲を設定せず、市内他地区等とも連携しながら、本事業を進めることを想定している。

### 市街地モデル：周陽・遠石地区



※背景地図は、OpenStreetMapを活用

#### ◆地区特性

市営住宅や県営住宅、マンションが立地する一方、老朽化した低層住宅地も広がり、幅広い年代が暮らしている。また、行政施設や教育施設、商業施設、医療施設が多く立地するとともに、路線バスが比較的多く運行されているなど、日常生活に関連したスマート化の検討に適していると考えられる。

#### ◆市の主要事業等との連携

周南緑地では、公民連携により体育施設や緑地公園の整備を検討しており、関係団体や企業等と連携しデジタル技術等の導入の有効性が高いと考えられる。

#### ◆選定理由

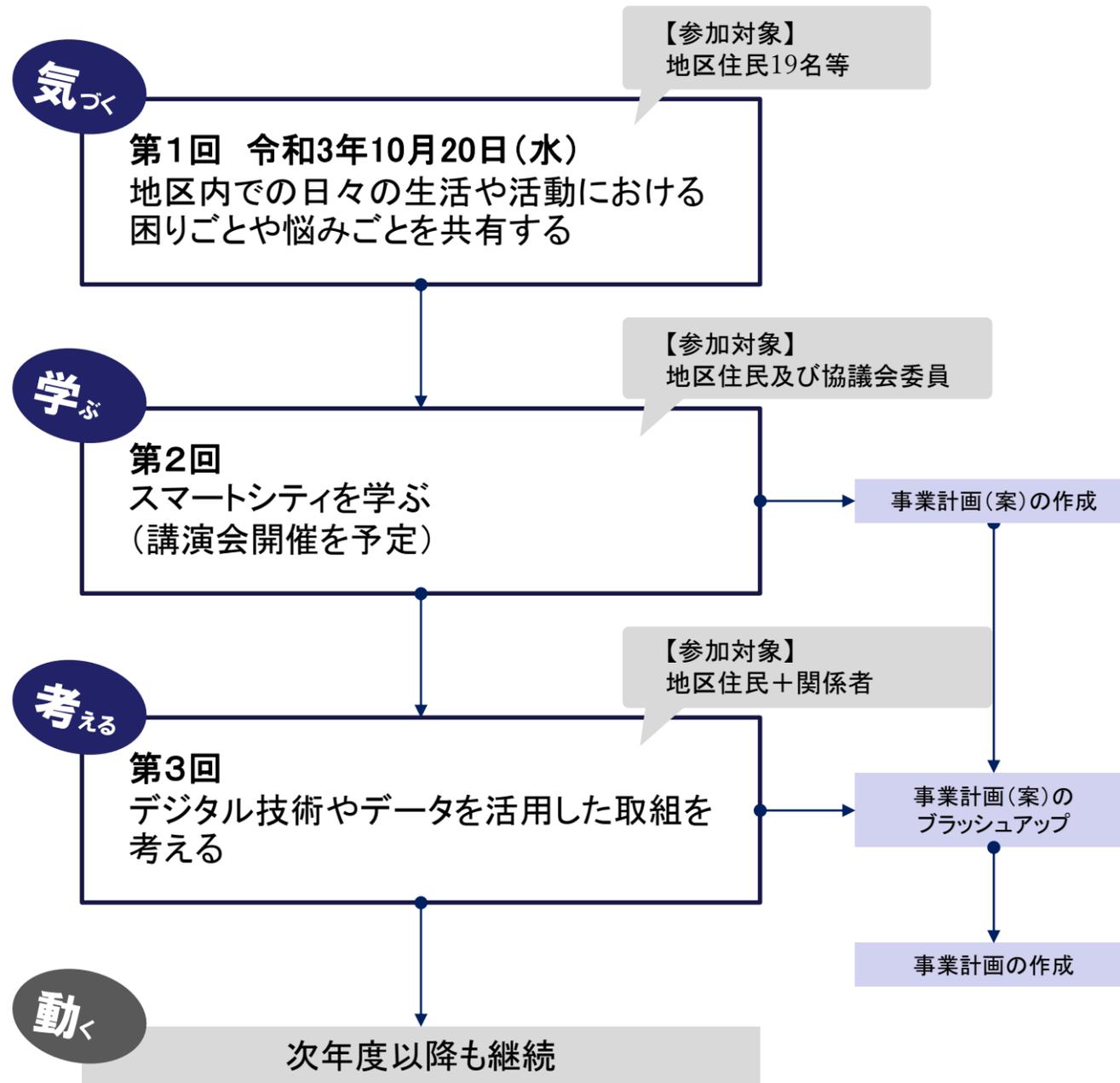
一定の居住人口、幅広い年代構成、多様な公共・民間の施設、周南緑地における取組との連携を考慮し、ニュータウン再生のモデルとして、周南団地（周陽・遠石地区）をモデル地区に選定する。

## § 4. モデル地区住民等との課題共有

### 1 ワークショップでの課題共有

- モデル地区の課題を設定する上では、人口等の現況データを分析するだけでなく、実際に住んでいる住民が日常生活の中で感じている生の声を把握することが非常に重要であることから、ワークショップを開催し、**住民目線から**地区の現状の問題点を把握し整理する。
- 意見聴取のみを行うのではなく、**専門家による講演会も含めたワークショップ**とし、次年度以降の展開につながるような**参加住民との協働も**期待して開催する。

#### ▼ワークショップの開催の流れ



### 2 各回のプログラム・進め方の留意点

	進め方・プログラム	コロナ禍をふまえた留意点・代替案
第1回 (目的) 地区内での日々の生活や活動における困りごとや悩みごとを共有する	(話題提供) ・スマートシティとは? ・ワークショップ開催の目的 ・地域の人物像及び困りごと・悩みごと (意見交換) ・地区内での日々の生活や活動における困りごとや悩みごと	・マスク、消毒、検温等感染防止対策の徹底 ・壁際にホワイトボードをたてて、付箋紙への記入等はすべてスタッフにて実施
第2回 (目的) スマートシティを学ぶ	(講演会) ・ICTやデータを活用したまちづくり (話題提供) ・第1回ワークショップのおさらい ・デジタル技術を用いた課題解決の事例紹介 (意見交換) ・デジタル技術を活用した生活の姿 ・周南緑地の利用利便性、快適性を高めるデジタル技術	●講演会 ・一堂に会しての開催が難しい場合、講師との調整によりオンライン開催の可能性 ●ワークショップ開催方法 ・緊急事態宣言等の状況を見て判断 ・一堂に会しての開催が難しい場合、アンケート調査や小規模グループヒアリングでの意見交換
第3回 (目的) デジタル技術等を活用した取組を考える	(話題提供) ・第2回ワークショップのおさらい ・現時点で導入しうるスマート技術 (意見交換) ・地区として優先的に行いたい取組 ・次年度に行う実験的取組	●事業者からの話題提供 ・次年度の社会実験を見据え、スマート技術を保有する事業者を招聘して話題提供(※オンライン開催可) ●ワークショップ開催方法 ・緊急事態宣言等の状況を見て判断

### 3 参加者

参加者	人数
周陽地区、遠石地区住民	
高齢者層 (60歳以上)	4名
子育て層 (保育園児・幼稚園児・小中学生・高校生がいる家庭の親)	8名
大学生	2名
地区内商業施設	
周南団地内店舗	1名
周南緑地利用者	
公園利用団体、スポーツ大会等主催者	1名
施設管理者	
周南市体育協会	1名
学校関係者 (周陽小学校・遠石小学校、周陽中学校・徳山商工高等学校)	4名

## § 4. モデル地区住民等との課題共有

### 4 ペルソナ設定の意義

スマートシティを推進していくためには、地域課題（＝ニーズ）を解決し、市民と事業者が相互にメリットを享受できることが重要である。

そのためには、サービスの対象者である住民や来訪者（＝ペルソナ）を具体的にイメージし、利用者目線でサービスを設計するとともに、そのサービス提供に必要なかつ的確な技術を調査・検討することが求められる。



図 国土交通省によるスマートシティの定義

### 5 ペルソナ設定のポイント

#### 【ポイント】

- モデル地区の住民や周南緑地の利用者を対象に、普段の生活像を明確化する。
- 明確化された内容を第1回ワークショップで議論をする。
- ペルソナの設定では、5W1Hの視点で洗い出しをする。

モデル地区における人物像（ペルソナ）と生活像を整理  
整理した結果をもとにデジタル技術で解決できることを調査・検討

§ 4.モデル地区住民等との課題共有

6 モデル地区における人物像(ペルソナ)

対象者	この地区の人物像	生活・活動イメージ			生活・活動ニーズ			
		生活・活動	買い物等	地域活動(自治会等)	日々の生活	余暇活動	非常時	
住民	高齢者	A夫婦二人暮らし(60歳以上)	退職後、再雇用で働いている。余暇活動の時間が出来たため、自身の経験を地域のために還元したいと考えている。健康維持も兼ねたペットの散歩や周南緑地でウォーキングやランニングするのが日課。	平日は徒歩か自転車で近くのスーパーに、休日は自動車で遠方のショッピングセンターに行き、買い物を楽しむ。	新しい仲間や趣味が欲しいこともあり、自治会等の地域活動にも参加し比較的交流が多い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動を兼ねて歩いて買い物をしたいが、荷物が重たくて持てない</li> <li>商品を自宅まで届けてほしい</li> <li>坂道があっても楽に移動したい</li> <li>人との出会いや外出、ボランティア等への参加の機会を持ちたい</li> <li>病院の待ち時間を減らしたい。</li> <li>病院の効率的な予約と病院までの送迎の仕組みがほしい</li> <li>車がなくても今まで通り出歩きたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日の散歩を身体的にサポートしてほしい</li> <li>同じ趣味の仲間と交流したい</li> <li>子や孫を喜ばせたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所までの移動をサポートしてほしい</li> <li>安否確認</li> <li>いざという時に頼れる・助け合える人のつながりの維持</li> </ul>
		B一人暮らし(75歳以上で配偶者とは死別)	定年後の一人暮らし。自炊の食事は健康に気を使っているが、一人なので面倒で手を抜くことも。定期的に通院。遠方へはバスや電車も利用。数年後には免許を返納する可能性もあるが、不便で外出が億劫になる不安がある。移動手段として、車が欠かせない。	平日の通院の帰りに買い物をする。	自治会等の地域活動にも参加したいが、一人での参加を敬遠している。			
		ファミリー層	E会社員・専業主婦・乳幼児の3人家族(居住歴浅い)	乳幼児1人と親。母親は専業主婦。夫の転勤で最近引っ越してきた。実家は県外。公共施設を利用したいが、利用方法がわからない。休日は子供を連れて近くの公園か動物園に行く。	平日は帰宅時にスーパー等で買い物。休日は家族でショッピングセンターへ。	自治会等には参加したいが、子育て等で忙しく、地域活動ができない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供を連れての買い物が大変</li> <li>同じような子供を持つ親との交流ができる場や頼れる子育てサポートがほしい</li> <li>子連れでも安心して集える場がほしい</li> <li>小さい子供を連れて、安心して遊べる場所がほしい</li> <li>野犬の心配をせず公園で遊びたい</li> <li>不審者から子供を守りたい</li> <li>通学路の安全を確保してほしい</li> <li>共働きなので、毎日の食事の献立検討や調理に疲れを感じる。同年代の子供を持つ世帯の夕食等のレシピを知りたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠くで行われているイベント(スポーツ、コンサート等)を観たい</li> <li>色々なイベントに参加したい</li> <li>子連れで安心して出かけられる場・お茶ができる場がほしい</li> </ul>
		F共働き夫婦と小学生・保育園児2人の4人家族	夫婦共働きで、小学生と保育園児の2人の子どもがいる。平日・休日は子供の習い事やスポーツ少年団の活動があり、夫婦のどちらかが車で送迎。休日は時々家族で車で遠方まで遊びに外出。	平日は帰宅時にスーパー等で買い物。休日は家族で車で遠方までショッピング。	学校関係行事は、月1回程度あり、主に妻が参加している。			
		G共働き夫婦と中学生・高校生の4人家族(夫は会社員、妻はパート)	中学生と高校生の2人の子供を持つ共働きの家庭。子供は平日・休日ともに部活や塾で忙しい。部活や塾は夫婦どちらかが送迎。日常生活に車は必須。	食べ盛りなので買い物の量が多く、妻がパート終わりに毎日買い物。週末は夫婦でショッピングセンターで買い物。たまに中学生が買い物に来るが、ほぼ外出は夫婦二人。	学校関係行事は月1~2回程度であり、主に妻が参加している。			
若者・学生		H徳山大学の学生(18歳~20代前半の一人暮らし)	大学近くのアパートで生活。大学には原付、自転車で通学。大学の図書館が勉強場所。アパートと大学とバイト先を行き来するのが日常。	休日はサークル活動か、車を所有する大学やバイトの仲間と外出している。	地域活動は特に行っていない。あまり興味がない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>趣味嗜好が合う人との交流を広げたい。</li> <li>就職活動やバイトに関する最新の情報を幅広く知りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>車がなくても遊びにいけるような生活をしたい(近場に娯楽の場)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害発生時にも安心・安全に対応できるようにしたい(ライフラインの確保等)</li> <li>非常時に必要な物資を日頃から確保</li> </ul>
		J若手社会人(20代の一人暮らし、車を所有)	今年から社会人。周南市に赴任となり、就職先やロードサイド店、ショッピングセンターに近い立地に惹かれ、アパートで一人暮らしを始めた。新生活を機に新しい趣味や地域活動への参加などに挑戦したい。	平日の夜はコンビニや外食で食事を済ませる。休日は、車でショッピングセンターで友達と買い物。	会社以外で共通の趣味を持つ仲間や地域コミュニティとのつながりが欲しいが、自治会等の地域活動には無縁。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のため社会のためになることを自分のペースで楽しみたい(Z世代のニーズ)</li> </ul>		
公園利用		K高齢者(近隣)、社会人、学生(大学等) ※社会人、学生は市外を含む	健康増進として、毎日のジョギング、ウォーキング、犬の散歩、トレーニングルームでのトレーニング等。	平日の昼間は地域の高齢者、夜間は会社帰りの人や学生が多く利用。	ボランティアとして公園内の清掃活動を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>野犬の心配をせずに運動を楽しみたい</li> <li>夜間でも女性一人で安心してジョギング等を楽しみたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園でのエクササイズによる健康管理をサポートしてほしい</li> <li>売店が遠いので近くまで届けてほしい</li> <li>汗を流したあとにシャワーを浴びたり飲食したりできると嬉しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害発生時に避難所としての機能を強化してほしい</li> </ul>
		L小学生・その親(市内、近隣)	児童や親が利用するが、小学校区があるため児童が単独での利用は限定的(フレンドパークは遠石小学校、交通センターは周陽小学校)。	休日は、家族と遊具遊び等での利用。	子供会の一環で定期的に公園内の清掃活動を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>野犬対策を講じて心配せずに遊ばせたい</li> <li>親は子供がどこにいるのか、子供はいつでも親と連絡が取れるようにしたい</li> </ul>		

# § 4. モデル地区住民等との課題共有

## 人物像シート① 「地域内の高齢者の例と困りごと・やりたいことのイメージ」

暮らしのイメージ

### 夫婦二人暮らし(60歳以上)

- 退職後、再雇用で働いている。
- 余暇活動の時間もできたため、健康維持も兼ねたベットの散歩や周南緑地や緑道でのウォーキングやランニングが日課。
- 買い物は自動車でショッピングセンターやスーパー、ドラッグストアへ。
- 地域の活動にも参加し、地域での交流が多い。



### 一人暮らし(75歳以上で配偶者とは死別)

- 一人暮らし。自炊の食事は健康に気を使っているが、手を抜くこともある。
- 通院や買い物に車が欠かせないが、運転に不安がある。
- 地域の活動には参加したいが、体力的に大変になってきている。



困りごとや悩みごとのイメージ

- 体力的に衰えてきているが、できるだけ毎日散歩したい
- 同じ趣味の仲間と交流したい
- 子や孫を喜ばせたい
- 孫の運動会や大会に行きたいが制限されていて行けない

### 日々の生活



- 避難所までの移動をサポートしてほしい
- いざという時に頼れる・助け合える人のつながりを維持したい

### 非常時



- 荷物が重くて買い物が大変
- 坂道があって移動が大変
- 話し相手や、同じ趣味を共有できる仲間がほしい
- 病院の待ち時間が長い
- 車がなくても今まで通り病院や買い物に行きたい

### 余暇活動



## 人物像シート③ 「地域内の若者世代の例と困りごと・やりたいことのイメージ」

暮らしのイメージ

### 大学生

- 大学近くのアパートで生活。
- 原付か自転車で通学。
- 大学の図書館で勉強。
- アパートと大学とバイト先を行き来する生活。
- 休日はサークル活動か、車を保有する、大学やバイト仲間と外出。
- 地域活動にはあまり興味がない。
- 自炊はあまりしない。
- 情報は主にスマホで入手する。



### 若手社会人

- 周南市に赴任となり、就職先やロードサイド店、ショッピングセンターに近いアパートで一人暮らし。
- 新しい趣味に挑戦し、仲間やコミュニティをつくりたい。
- 平日夜はコンビニや外食。
- 休日は車で外出。
- 地域の活動には無縁。
- 情報は主にスマホで入手する。

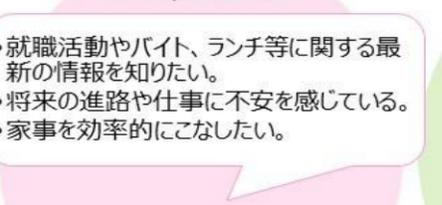


困りごとや悩みごとのイメージ

### 余暇活動

- 近場に娯楽の場がほしい。
- 趣味嗜好が合う人との交流を広げたい。

### 日々の生活



- 就職活動やバイト、ランチ等に関する最新の情報を知りたい。
- 将来の進路や仕事に不安を感じている。
- 家事を効率的にこなしたい。

### 非常時



- 災害発生時にも安心・安全に対応できるようにしたい(ライフライン確保等)。
- どういった時に、どこに避難したらいいかわからない。

## 人物像シート② 「地域内の子育て世代の例と困りごと・やりたいことのイメージ」

暮らしのイメージ

### 乳幼児のいる家族

- 会社員・専業主婦・乳幼児の3人家族。夫の転勤で最近引っ越してきた。
- 公共施設の利用方法がわからない。
- 休日は子供と近くの公園や動物園に行く。
- 平日は帰宅時にスーパー等で、休日は家族でショッピングセンターに買い物に行く。
- 地域の活動には子育て等であまり参加していない。

### 保育園児・小学生のいる家族

- 夫婦共働きで、小学生の子供と保育園児の4人家族。
- 子供の習い事には夫婦どちらかが車で送迎している。
- 休日は車で遠方まで外出したり、スポーツの試合を見に行ったりする。
- 学校行事は主に、妻が参加している。
- 平日はショッピングセンターやドラッグストア等に買い物に行く。

### 中学生・高校生のいる家族

- 夫婦共働きで、妻はパートに出ている。
- 中学生と高校生の子供がいる。
- 子供は平日休日も部活、平日夜は塾で夫婦どちらかが車で送迎。
- 休日は夫婦二人で買い物。
- 学校行事は主に、妻が参加している。
- 子供は進学・就職に向けて準備している。

困りごとや悩みごとのイメージ

- スポーツ、コンサート等を観たい
- 色々なイベントに参加したい
- 子供連れで安心して出かけられる場・お茶が飲める場がほしい
- 一人の時間が欲しい
- 運動不足を解消したい
- 子供の運動会や大会に家族で行きたいが制限されていて行けない。

### 日々の生活



- 災害発生時にも安心・安全に対応できるようにしたい(ライフラインの確保等)
- 非常時に必要な物資を日頃から確保したい
- 子供の安否を把握したい

### 非常時

- 【買い物・家事等】
- 子供を連れての買い物が大変
- 毎日の食事の献立検討や調理を楽にしたい
- 車での子供の送迎が大変
- 洗濯等の家事が大変
- 自分の健康が気になる

### 余暇活動



### 【子育て関連】

- 小さい子供が安心して遊べる場所がほしい
- 同年代の子供を持つ親との交流がほしい
- 登下校中の子供が心配
- 頼れる子育てサポートがほしい
- 子供の食の安全に配慮してほしい
- 野犬の心配をせずに公園で遊びたい

## 人物像シート 「周南緑地利用者の例と困りごと・やりたいことのイメージ」

周南緑地利用者

### 高齢者、社会人、学生

- 健康増進として、ジョギング、ウォーキング、犬の散歩、トレーニングで活用。
- 平日昼間は地域の高齢者、夜間は社会人や学生、休日は社会人や学生が参加するスポーツ大会で利用されている。
- ボランティアとして公園内の清掃活動を実施。



### 小学生・その親

- 大型複合遊具などがある周南フレンドパークを利用。
- 休日は家族連れが多い。
- 子供会で公園の清掃活動が実施。
- スポーツ等の大会で利用。



困りごとや悩みごとのイメージ

- 【健康づくり等】
- 健康につながる歩き方や体の動かし方を教えて欲しい。
- 着替えたり荷物を置く場所があると嬉しい。
- 食事をすると場所が少ない。
- 夜、園内が暗くて不安。

### 日々の利用

- 【子供の遊び等】
- 子供が遊んだり、大会に出ているときに間をつぶせるものが欲しい。
- 小さな子供でも安心して遊べる場がほしい。
- 公園が広く、子供が迷子にならないか心配。
- 野犬の心配をせずに公園で遊びたい。

### 非常時

- 災害発生時に避難所として使いたい。



## § 4.モデル地区住民等との課題共有

### 7 第1回ワークショップ当日の様子





## § 4. モデル地区住民等との課題共有

## 8 第1回ワークショップのまとめ

## 【キーワード】

## 【ワークショップで出た意見要旨】

## 住み続けたいと思う街

- 若い人が市外に出ると帰ってこない
- 若い人が住みやすい環境を整え、若い世代に来てもらえる街に(遊び場をつくる等)

## 買い物外出

- お年寄りが歩いて買い物できる場所が少ない
- 徒歩で買い物に行き、大荷物で帰宅するのが大変
- 車が無い人はタクシーで買い物に行く
- トイレが少ない。トイレをきれいにしてほしい。
- 外出しない人が心配

## 健康づくり

- 健康の意識は高いが、健康づくりをする一歩が出ない
- 健康講座はあるものの、定員オーバーで参加できない
- 高齢者は家から出る人と出ない人の二極化になっている
- 坂が多いため、運動にはなる
- 自宅の階段を登れない人もいる

居場所  
学び  
子育て

- 子供たちの居場所や集まれる場所が欲しい(市民センターや児童館等)
- 雨天時に遊べる場所が少ないので、室内のアクティビティが出来る場所が欲しい
- 大学生の遊べる場所(ボーリング等)が無く、遊ぶ時は広島まで行ってしまう
- スケボーパーク等の遊び場も欲しい
- 趣味がいろいろあるので、いろいろ行ける場所が欲しい
- イベントをしてほしい
- 子供に応じた指導をしてほしい
- 将来の子育て環境をイメージできるようにしてほしい

情報の  
集約化

- 地域団体の活動情報がわからない
- 体育館や部屋の利用状況の把握や割り振りが出来るシステムが欲しい
- 垣根を越えて交流できるような情報(統一感がない)
- 災害時にはいろいろな情報が欲しい
- 知ろうとしないと情報が来ない
- 病院の情報が一括されていない。評判も知りたい。

地域との  
繋がり

- 非常時以外も気軽に繋がる場やコミュニティの構築が重要
- 地域との繋がりが希薄
- 人と人との繋がりが魅力ある街に繋がるのではないか
- 施設等のハード面も大切だが、人と人との繋がりも必要である
- 若い社会人はボランティアに参加してくれない

安心安全  
な暮らし

- 緑地や夜道は暗く、一人で歩くのが怖い
- 野犬が多くて驚く。通学の途中で野犬を見かけて危険。安心安全に遊べるようにしてほしい
- 交通量が多い。歩行者が横断するとき危ない。狭い道路や暗い道が多い。
- 集団で登校しないと児童の事故が心配
- 災害時にいつどのくらいの災害が発生するかがわからず、不安である
- 親が離れたところに住んでいる

安心安全  
な公園

- 夜のジョギングを安心して出来るようにしてほしい
- 野犬の影響でマダニも多く、子供を草むらで遊ばせられない
- 暗いので見通しをよくしてほしい

## 緑地の管理

- 周南緑地は維持管理されていないのが問題(トイレ、駐車場、草木)
- グリーンベルト(緑道)があるが、傷んでいる

公園の魅力  
づくり

- キャンプ場はあるが今はほとんど利用されていない
- 少子化の進行で町内に幾つかある小さな公園を持て余している
- 緑地の計画を大学と連携すれば面白いのではないか
- 緑地に人が来やすくなる工夫が欲しい
- 駐車場、公共交通、お店が少ない
- グリーンベルトは重要な地域資源
- 土日は大会で埋まっている。Web配信してほしい。

## § 4. モデル地区住民等との課題共有

### 9 モデル地区の困りごとと解決された姿(案)

- ワークショップを通して把握した地区の困りごとと解決された姿を、現時点で以下のように整理。

#### 地域生活・活動での困りごと

##### 1. 買い物・外出・健康づくり

###### ●買い物・外出

- ・身近に買い物する場所が少ない
- ・移動スーパーだけでは不十分
- ・徒歩で買い物に行き、大荷物で帰宅するのが大変
- ・車がない方はタクシーで買い物をしている
- ・トイレが少ない

###### ●健康づくり

- ・朝から緑地で運動する高齢者がいる一方、まったく外出しない高齢者もいる
- ・区内は坂が多いため、運動にはなる
- ・健康づくり講座が開催されているが、自分では行けない
- ・健康意識は高いが、取り組めていない
- ・自宅の階段を登れない人がいる

#### 解決された姿(案)

##### 歩いて外出しやすく健康的な生活を楽しんでいる

宅配や遠隔診療等のサービスを利用できるとともに、身近に買い物、集う場所があり、気軽に外出もできる。買い物や医療機関の受診と併せて歩く機会をつくったり、公園やスポーツ施設での運動を行い、健康的な生活を楽しんでいる。

##### 2. 居場所・学び・子育て

###### ●遊び場・居場所

- ・市民センター、児童館等、子供の居場所がほしい
- ・屋根があって小さな子供でも遊べる場所がほしい
- ・大学生が遊ぶ場所、活動する場所がない
- ・スケボーパーク等の遊びがほしい
- ・非常時以外も気軽に繋がる場やコミュニティの構築が重要

###### ●魅力が乏しい

- ・公園利用者の購買や飲食等の場が乏しい
- ・区内での催し等に関する情報がない

##### 遊びや交流、学び等の活動が活発に行われている

子供達が、放課後や休日、友達や家族と家の外で遊んだり、学んだりしあっている。地区住民や来訪者が、周南緑地公園を憩いやスポーツ、新たなアクティビティの場として活用し、地域への愛着を深めている。

##### 3. 安心安全

###### ●野犬

- ・通学途中に野犬を見かけて危険
- ・朝方に市民プール周辺に野犬がいる
- ・野犬によるマダニ被害がある
- ・子どもが小さいときは自分で公園に行ってほしいが、野犬が多くて安心して遊べない

###### ●交通安全・生活安全

- ・緑地公園内を通過する時、暗くて怖い場所がある
- ・冬になると暗くなるのが早く、一人で歩くのが怖い
- ・道路が狭くて暗く、交通事故が心配

##### 暮らしの安全が確保されている

公園の利用や通勤・通学等の区内の移動に際して、野犬や自動車、夜間の暗さ等によって生じる危険が低下することにより、いつでも安心して通勤・通学、外出、屋外での活動を行うことができる。

## § 5.次年度以降の取組の方向性の検討

## 1) 重点プログラム(案)

- 社会実装を見据えて、各年度での想定するゴールとそのために必要な取り組みメニューを検討し、今後、事業計画として取りまとめていく。

## 重点プログラム1

歩いて外出しやすく  
健康的な生活を楽しめる  
環境の構築

## 重点プログラム2

遊びや交流、学び等の活動を  
活発に行える仕掛け

周南市スマートシティ構想

多様なデータやスマート技術の活用  
共通のプラットフォーム

## 重点プログラム3

暮らしの安全の確保

多様なデータや先端技術等を活用し、活力ある豊かなスマートシティ周南へ変革

# § 5.次年度以降の取組の方向性の検討

## 2 重点プログラムの取組メニュー例

解決された姿	課題	取組メニュー例 (●ハード・○ソフト案)	デジタル技術の例
<p><b>歩いて外出しやすく健康的な生活を楽しんでいる</b></p> <p>宅配や遠隔診療等のサービスを利用できるとともに、身近に買い物、集う場所があり、気軽に外出もできる。買い物や医療機関の受診と併せて歩く機会をつくったり、公園やスポーツ施設での運動を行い、健康的な生活を楽しんでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>坂道が多い地形を踏まえ、高齢者の<b>徒歩移動</b>に対するサポートが必要</li> <li>お出かけを促進する区内での催しや講座等に関する<b>情報提供</b>が必要</li> <li>自宅から気軽に買い物に出かけられる<b>場所の確保</b>が必要</li> <li>歩く楽しみや自らの<b>健康を実感できる仕組み</b>が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●バリアフリー環境の整備 ○歩きやすい道の情報提供</li> <li>●徒歩移動を支援するモビリティサービス(グリスロ、走行環境の整備) ●モビリティのシェアリング利用システム</li> <li>○ロボットによる荷物運搬サービス</li> <li>○施設等での催しや交流機会の充実 ○シンプルなデバイスでの区内の情報に関する一元提供</li> <li>●アンテナショップの設置等による場所の確保 ○配達サービス</li> <li>○筋力に応じたスマートスーツやスマート装具</li> <li>○医療機関やトレーナーと連携した歩行能力診断やリハビリテーション ○能力に応じた周南緑地を活用したウォーキングプログラム ○歩行距離に応じて特典が得られるサービス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>車椅子、ベビーカー等の通路等の歩きやすさマップの電子化(<b>Web-GIS</b>)</li> <li>利用ニーズや車両の乗降データから最適なルート・ダイヤを分析(<b>AI運行管理</b>)(<b>自動運転</b>)</li> <li>簡易な予約システムや予約代行サービス(<b>情報プラットフォーム</b>)</li> <li>区内の情報集約とシンプルなデバイスでの情報提供(<b>Web-GIS</b>)</li> <li>買物代行サービスとAIによる効率的な配送システム(<b>自動配送システム</b>)</li> <li>消費者と買物代行者とのマッチング(<b>情報プラットフォーム</b>)</li> <li>個人特性や得られる特典に応じた周南緑地 &amp; まちなかウォーキングルートや距離等の情報提供(<b>健康管理アプリ</b>)</li> </ul>
<p><b>遊びや交流、学び等の活動を活発に行っている</b></p> <p>子供達が、放課後や休日、友達や家族と家の外で遊んだり、学んだりしている。地区住民や来訪者が、周南緑地公園を憩いやスポーツ、新たなアクティビティの場として活用し、地域への愛着を深めている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供達が年齢層に応じて区内で気軽に遊べる場所と<b>見守りの仕組み</b>が必要</li> <li>区内での若者の<b>アクティビティ</b>を促す機能が必要</li> <li><b>公園(競技場)施設利用者の飲食</b>を支える機能が必要</li> <li>各施設で開催される催し物やイベントに関する<b>効果的な情報提供</b>が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●屋内(全天候)型の遊び場の整備(※既存施設の活用もあり) ○校区を超えて周南緑地公園を利用できるルールと見守り体制構築(見守りシステム)</li> <li>●周南緑地へニュースポーツやデイキャンプ等新たなアクティビティの導入 ●ジョギングやエクササイズをサポートする機能の充実</li> <li>●公園内での憩いや飲食を楽しめる機能や空間の充実 ○昼食等の購入・配達サービスの導入</li> <li>○地元企業や大学等と連携したイベントの開催と周知 ●区内での催し物やイベントに関するポータルサイトの運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども見守るライブカメラでの映像配信(<b>ネットワークカメラ</b>)</li> <li>子どもの位置情報を把握(<b>AIセンサー</b>)(<b>見守りアプリ</b>)</li> <li>施設や空間の利用状況(施設出入口の入館管理)(<b>混雑状況配信システム</b>)</li> <li>周南緑地近隣の商業施設(コンビニ)等と連携し商品を移動販売(<b>自動配送システム</b>)</li> <li>アクセス数が多いページを分析し、情報量増加とページ頻度の向上を促す等、地域情報を集約・提供(<b>情報プラットフォーム</b>)</li> </ul>
<p><b>暮らしの安全が確保されている</b></p> <p>公園の利用や通勤・通学等の区内の移動に際して、野犬や自動車、夜間の暗さ等によって生じる危険が低下することにより、いつでも安心して通勤・通学、外出、屋外での活動を行うことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リアルタイムに野犬の出没情報を把握でき、<b>遭遇の確率を低減させる仕組み</b>が必要</li> <li>夜間、暗さを気にせず、安心して外出できる公園内や<b>道路環境の改善</b>が必要</li> <li>不審者をはじめ、<b>区内のリスクに関する情報共有の仕組み</b>が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●野犬の追い払いまたは誘導 ○公園や道路での野犬の出没情報のリアルタイム発信</li> <li>●見通しを阻害する樹木、植生等に関する適切な管理(伐採、除草) ●主な生活動線における明るさの確保(自動点灯ライト)</li> <li>●監視カメラの設置による不審な人物やモノ、災害発生状況等の検知 ○検知した情報のリアルタイム情報提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園や道路上での野犬に関するセンシング(<b>SNSの投稿集約システム</b>)</li> <li>ロボット犬等による音、動き等を使った護衛</li> <li>樹木等の生育状態のモニタリングによる植栽管理の最適化(<b>ネットワークカメラ</b>)</li> <li>省エネによる明るさの確保、不審者のモニタリング、人流データ等を蓄積・活用(<b>スマート街路灯</b>)(<b>ネットワークカメラ</b>)</li> <li>住民が生活の中で感じる課題や危険を他の住民や自治体と共有(<b>SNSの投稿集約システム</b>)(<b>情報プラットフォーム</b>)</li> </ul>

# § 5.次年度以降の取組の方向性の検討

## 3 重点プログラムのフィールド

歩いて外出しやすく  
健康的な生活を楽しんでいる

遊びや交流、学び等の  
活動を活発に行っている

暮らしの安全が  
確保されている

### 市民センター等での催し

●お出かけを促進する地区内での催しや講座等に関する情報提供が必要

- ・施設等での催しや交流機会の充実
- ・シンプルなデバイスでの地区内の情報に関する一元提供

### 身近に買い物できる場所

●自宅から気軽に買い物に出かけられる場所の確保が必要

- ・アンテナショップの設置
- ・配達サービス

### 医療機関や店舗との連携

●歩く楽しみや自らの健康を実感できる仕組みが必要

- ・医療機関やトレーナーと連携した歩行能力診断やリハビリテーション
- ・能力に応じた周南緑地を活用したウォーキングプログラム
- ・歩行距離に応じて特典が得られるサービス

### 遊びができる場所

●子ども達が年齢層に応じて地区内で気軽に遊べる場所と見守りの仕組みが必要

- ・屋内（全天候）型の遊び場の整備
- ・校区を超えて周南緑地公園を利用できるルールと見守り体制づくり

### 周南緑地内施設

●若者のアクティビティを促す機能が必要

- ・周南緑地公園へのニュースポーツやデイキャンプ等新たなアクティビティの導入

### 地区内の情報

●各施設等で開催される催し物やイベントに関する効果的な情報提供が必要

- ・地元企業や大学等と連携したイベントの開催と周知
- ・地区内での催し物やイベントに関するポータルサイトの運営

### 通勤・通学路・園路

●リアルタイムに野犬の出没情報を把握でき、遭遇の確率を低減させる仕組みが必要

- ・野犬の放逐または誘導装置等による護衛
- ・公園や道路での野犬の出没情報のリアルタイム発信

### 坂道が多い住宅地

●お年寄りの徒歩移動に際してのサポートが必要

- ・歩行移動支援サービス
- ・荷物運搬サービス 等

●夜間、暗さを気にせず、安心して外出できる公園内や道路環境の改善が必要

- ・見通しを阻害する樹木、植生等に関する適切な管理
- ・主な生活動線における明るさの確保

### 地区の危機管理

●不審者をはじめ、地区内のリスクに関する情報共有の仕組みが必要

- ・監視カメラの設置による不審な人物やモノ、災害発生状況等の検知
- ・検知した情報のリアルタイム情報提供

### 公園施設と周辺施設の連携

●公園（競技場）施設利用者の飲食等を支える機能が必要

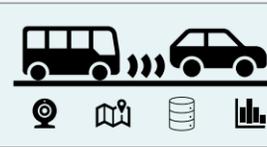
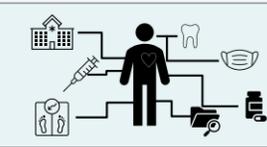
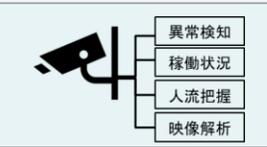
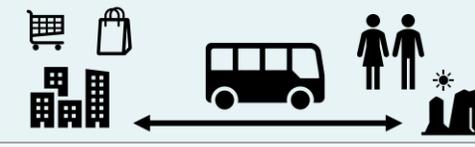
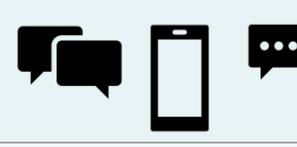
- ・公園内での憩いや飲食を楽しめる機能や空間の充実
- ・昼食等の購入・配達サービスの導入



## § 5.次年度以降の取組の方向性の検討

### 4 デジタル技術の例

※デジタル技術の例示であり、モデル地区における取組の参考です。活用する具体的なデジタル技術等は、今後の検討や企業等との連携の中で決定します。

項目	Web-GIS	AI運行管理・自動運転	情報プラットフォーム	健康管理アプリ	ネットワークカメラ、AIセンサー	
概要	インターネット上で利用可能な地図情報システム（GIS）のことで、様々な情報を地図上に可視化する。	運転の無人化・自動化することで交通事故の削減や移動手段の確保、ドライバー不足などの地域の問題を解消する。	不特定多数の人に情報やサービスを展開する更新可能なインターネット上の公開サイトである。	健康測定者の健康状態や運動等の取り組み状況をデータ解析し、健康状態を管理・分析する。	カメラやネットワーク、画像解析の技術を用いて、リアルタイム映像から現場の状況を多角的に情報収集する。	
技術分野	GIS	運行管理・インフラ整備	情報流通	ヘルスケア	画像・映像分析	
イメージ						
市場における普及度	・政府を中心にGISデータの電子提供は増加傾向にある	・レベル2、4での実装まで ※レベル4は実証実験段階	・民間ではECサイトやデジタルコンテンツ・プラットフォームなどが普及	・コロナ過で多様な端末が普及	・ビッグデータの進歩・スマートデバイスへの人工知能技術統合により拡大	
一般的な考え	メリット	・情報更新作業の効率化	・移動手段の確保、交通事故の減少	・データ相互活用可能。	・健康活動の見える化、健康増進	・セキュリティの向上、情報収集
	デメリット	調査中	・安全性の担保、整備費	・インターネット環境の影響を受けやすい。	・プライバシーとセキュリティ対策	・機材設置等の費用不安
現状の課題	調査中	・完全自動運転には法律改正が必要	・データ連携の高度化	・個人情報の取り扱い	・画像認識技術の向上	
法令等の整備状況	・H19.5 地理空間情報活用推進基本法が、国会で制定。	・R2.4の道路交通法改正でレベル3まで導入可能	・R2.6 特定デジタルプラットフォームの透明性及び公正性の向上に関する法律が公布。	・H30.5 次世代医療基盤法施行	・IoT セキュリティガイドライン（総務省）	
主な事例箇所	・ガイドマップかわさき(神奈川県)	・秋田県上小阿仁、滋賀県奥永源寺	調査中	N-CHAT(長崎県)	・河川監視システム(国土交通省)	
項目	見守りアプリ	混雑状況配信システム	自動配送システム	SNSの投稿集約システム	スマート街路灯	
概要	生活空間にセンサー等を設置することで、遠隔地から見守り対象者の動向や情報を通知・把握する。	あらゆる混雑情報を収集し提供。商業施設等、混雑状況をセンサーやカメラで検知し、スマートフォンなどに配信。	配送完了までのプロセスを管理し。配送状況の可視化や柔軟な対応を行うためのシステム。	複数のSNSに寄せられた情報を一元管理。最新の動物出没や災害情報を拡散し、住民への被害を防ぐ、	照明のLED化とネットワーク化による一元管理。季節やエリアごとに点/消灯時間を調整し、使用量を削減。	
技術分野	システム構築	IoT、AI	物流管理	ソーシャルメディアウォール	IoT	
イメージ						
市場における普及度	・利用意向者は4割強 ※日本公衆衛生雑誌による(60巻5号)	・全国100以上の自治体に導入。	・EC市場の拡大や、スマートフォンを用いたネットショッピングの需要増加	・SNS利用者は年々増加。年代も10～20代から40～60代以上へと拡大。	・5G時代の到来により、都市建設で広く応用されている	
一般的な考え	メリット	・自動認識(通知)等による負担軽減	・住民の利便性向上、集客効果、感染症対策	・クラウドにおける総合管理可能。 ・ヒューマンエラー削減	・最新情報取得が容易。 ・多種多様な情報の取得可能。	・防犯、避難誘導など暮らしの安心安全を守る。
	デメリット	・利用者の利用料負担等	・システム導入コスト	・システム導入コスト	・プライバシーの欠如	調査中
現状の課題	・緊急時対応、個人情報の取り扱い	・データ情報の蓄積	・配送最適化の実現	・利用者のリテラシー向上	調査中	
法令等の整備状況	・地域包括ケアシステムの構築推進	調査中	調査中	調査中	調査中	
主な事例箇所	日立「ドシテル」(単身高齢者向け)	・混雑状況配信ソリューション(TOA)	・SaaS夕食宅配サービス(FUJITSU)	・クマ目撃情報集約システム(長岡造形大学)	・六本木商店街振興組合(NEC)	

## § 5.次年度以降の取組の方向性の検討

### 5 分野横断的なプラットフォームの必要性

- デジタル技術を活用した各施策実施の効果を高め、持続可能な取組とする必要。
- 効果を高め、持続可能な取組とするには、取得・活用するデータを相互にやり取りするなど、施策間でのデータ連携が必要。
- 更に、市の関連施策ともデータ連携することにより、周南市でのデータを活用したスマートシティの構築に繋がる。
- そこで、**重点プログラムに位置付けた各施策と市の関連施策により取得したデータを活用、一元管理する「データ連携基盤」の構築が必要。**



IoTデバイス・センサー

家電 人感センサー健康機器 心拍計 公共交通 環境複合センサー

スマートライト 環境センサー カメラ画像データ

オープンデータ

次世代デジタルサイネージ Wi-Fi アプリ利用

§ 6.今後のスケジュール

